令和元年度　指定管理者年度評価シート

１　公の施設の基本情報

施設名称	千葉市科学館
条例上の設置目的	千葉市科学館設置管理条例（平成18年千葉市条例第44号） 第1条　本市は、科学に関する知識の普及及び啓発並びに青少年の創造力のかん養を図り、市民文化の発展に寄与するため、千葉市科学館を設置する。
ビジョン （施設の目的・目指すべき方向性）	千葉市科学館は、千葉市科学都市戦略の基本理念「こどもから大人まで、すべての市民が日常生活の中で科学・技術を身近に感じることができる、科学都市を創造する」に基づき、市民が科学・技術に触れ合い、ライフスタイルに科学が浸透する機会を提供する生涯学習施設としての役割を担っている。また、千葉市科学館のコンセプトは、「参加体験型の科学館」と、人から人へのコミュニケーションを大切にした「人が主役となる科学館」である。
ミッション （施設の社会的使命や役割）	・幅広い年齢層の市民を対象に、科学に関する知識の普及及び啓発に寄与すること ・学校教育と連携して、青少年の創造力のかん養を図り、科学や技術に対する興味関心を高めること
制度導入により見込まれる効果	市民サービスの向上を図るとともに、生涯学習施設として学校教育支援を充実させることや、さらに多くの市民に本施設を利用してもらうという効果を見込んでいる。
成果指標※	①入館者数 ②利用者アンケートにおける利用者満足度 ③市内小学校団体利用の割合
数値目標※	①400,000人 ②97% ③100%
所管課	千葉市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課

※　成果指標及び数値目標は、選定時に設定したものである。

２　指定管理者の基本情報

指定管理者名	コングレ・東急コミュニティー共同事業体
構成団体 （共同事業体の場合）	株式会社コングレ 株式会社東急コミュニティー
主たる事業所の所在地 （代表団体）	大阪市中央区淡路町三丁目6番13号
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日（5年）
選定方法	公募
非公募理由	
管理運営費の財源	指定管理料及び利用料金収入

３　管理運営の成果・実績

（１）成果指標に係る数値目標の達成状況

成果指標	数値目標　※1	R1年度実績	達成率
入館者数	474,900人（400,000人）	394,974人　※2	83.2%
利用者アンケートにおける利用者満足度	98%（97%）	96.1%	98.1%
市内小学校団体利用の割合	100%	99.1%　※3	99.1%

※1 数値目標は選定時に設定した数値であり、市設定の数値を上回る目標を指定管理者が設定している場合、市設定の数値は括弧書きで表している。
※2 3/3～3/31の29日間、新型コロナウイルス感染症防止のため休館。
※3 3/3より休館したため、3/4来館予定だった小学校1校がキャンセルとなった。

（２）その他利用状況を示す指標

指　標	R1年度実績
プラネタリウム稼働率（%）	27.4%

4　収支状況

（１）必須業務収支状況

ア　収入

（単位：千円）

費　目		R1年度	【参考】H30年度	計画実績差異・要因分析		
				差異		主な要因
指定管理料	実績	405,900	404,215	実績－計画	2,402	3月休館分利用料金等の補填
	計画	403,498	404,215	計画－提案	△ 3,702	消費税率10%→8%（上半期分）
	提案	407,200	411,700			
利用料金収入	実績	53,774	70,935	実績－計画	△ 21,926	有料入館者数の減
	計画	75,700	70,693	計画－提案	△ 18	
	提案	75,718	72,003			
その他収入	実績	21,849	28,171	実績－計画	△ 14,033	ミュージアムショップ売上の減
	計画	35,882	34,560	計画－提案	△ 218	消費税率10%→8%（上半期分）
	提案	36,100	35,200			
合計	実績	481,523	503,321	実績－計画	△ 33,557	
	計画	515,080	509,468	計画－提案	△ 3,938	
	提案	519,018	518,903			

イ　支出

（単位：千円）

費　目		R1年度	【参考】H30年度	計画実績差異・要因分析		
				差異		主な要因
人件費	実績	271,245	250,916	実績－計画	9,147	職員数の増
	計画	262,098	258,543	計画－提案	△ 1,616	社会保険料の減
	提案	263,714	258,543			
事務費・管理費	実績	133,999	151,535	実績－計画	△ 14,333	賃借料、保守点検、消耗費の減
	計画	148,332	144,305	計画－提案	△ 1,362	光熱水費の減
	提案	149,694	148,560			
委託費	実績	41,473	66,901	実績－計画	△ 28,535	委託費の減
	計画	70,008	66,365	計画－提案	△ 642	消費税率10%→8%（上半期分）
	提案	70,650	70,000			
その他事業費	実績	29,810	30,896	実績－計画	△ 4,832	ショップ商品仕入れ減
	計画	34,642	40,255	計画－提案	△ 318	消費税率10%→8%（上半期分）
	提案	34,960	41,800			
本社費・共通費	実績			実績－計画	0	
	計画			計画－提案	0	
	提案					
合計	実績	476,527	500,248	実績－計画	△ 38,553	
	計画	515,080	509,468	計画－提案	△ 3,938	
	提案	519,018	518,903			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

（２）自主事業収支状況

ア　収入

（単位：千円）

費　目		R1年度	【参考】H30年度
自主事業収入	実績	2,048	2,812
その他収入	実績	0	0
合計	実績	2,048	2,812

イ　支出

（単位：千円）

費　目		R1年度	【参考】H30年度
人件費	実績		
事務費	実績		
管理費	実績		
委託費	実績		
使用料	実績		
事業費	実績		
利用料金	実績		
その他事業費	実績	1,709	1,929
本社費・共通費	実績		
合計	実績	1,709	1,929

本社費・共通費の配賦基準・算定根拠

（３）収支状況

（単位：千円）

		R1年度	【参考】H30年度
必須業務	収入合計	481,523	503,321
	支出合計	476,527	500,248
	収　支	4,996	3,073
自主事業	収入合計	2,048	2,812
	支出合計	1,709	1,929
	収　支	339	883
総収入		483,571	506,133
総支出		478,236	502,177
収　支		5,335	3,956
利益の還元額		0	0
利益還元の内容			

５　管理運営状況の評価

（１）管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

評価項目	市の評価	特記事項
入館者数	C	市設定目標値の98.7%
利用者アンケートによる利用者満足度	C	市設定目標値の98.1%
市内小学校団体利用の割合	C	市設定目標値の99.1%（休館により1校がキャンセル）

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。
Ａ：成果指標が市設定の数値目標の１２０％以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はＢとする。）
Ｂ：成果指標が市設定の数値目標の１０５％以上１２０％未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はＣとする。）
Ｃ：成果指標が市設定の数値目標の８５％以上１０５％未満
Ｄ：成果指標が市設定の数値目標の６０％以８５％未満
Ｅ：成果指標が市設定の数値目標の６０％未満

（２）市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料支出の削減	C	選定時の提案額よりも消費税2%分が減、新型コロナウイルス感染症休館による利用料金補填分（29日分）が増、合わせて提案額よりも0.3%の減となった。

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。
Ａ：選定時の提案額から１０％以上の削減
Ｂ：選定時の提案額から５％以上１０％未満の削減
Ｃ：選定時の提案額と同額又は５％未満の削減
（Ｄ・Ｅ：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし）
－：対象外（市の指定管理料支出がない。）

（３）管理運営の履行状況

評価項目	自己評価	市の評価	特記事項
1　市民の平等利用の確保・施設の適正管理			
市民の平等利用の確保	B	C	･台風19号接近時には、交通機関の計画運休に備えて職員の待機態勢を取り、定時に開館することができた。 ･新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた時期には、利用者・講師の安全を確保しながら講座の運営を行った。
関係法令等の遵守			
リスク管理・緊急時対応			
2　施設管理能力			
（１）人的組織体制の充実			
管理運営の執行体制	B	A	･提案書を上回り、56名の職員を配置した。 ･博物館学芸員有資格者を増やし、30名配置した。
必要な専門職員の配置			
従業員の能力向上			
（２）施設の維持管理業務			
施設の保守管理	C	C	･7階の展示照明をLED化し、省電力を図った。 ･新型コロナウイルスの感染拡大時期に、展示物の清掃･消毒を強化した。
設備・備品の管理・清掃・警備等			
3　施設の効用の発揮			
（１）幅広い施設利用の確保			
開館時間・休館日	B	C	・各種イベント開催時には利用料金の免除を行ない、科学の拠点としての役割を果たそうとした。 ・スマホ専用のサイトはデザインもよく、イベント情報をわかりやすく発信できていた。
利用料金設定・減免			
利用促進の方策			
（２）利用者サービスの充実			
利用者への支援	B	C	・消費増税に際しては利用料金を据え置き、利用者サービスの充実を図った。
利用者意見聴取・自己モニタリング			
（３）施設における事業の実施			
施設の事業の効果的な実施	B	B	･文化庁の助成金を申請し、千葉科学クラスター事業を実施。近隣機関との様々な共同事業を実施した。
自主事業の効果的な実施			
4　その他			
市内業者の育成	C	C	･前年度に採用した障害のある職員（1名）を年間を通じて継続雇用した。
市内雇用への配慮			
障害者雇用の確保			
施設職員の雇用の安定化への配慮			

【評価の内容】
Ａ：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
Ｂ：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を上回るなど、優れた管理運営が行われていた。
Ｃ：概ね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた。
Ｄ：一部、管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、改善の余地がある管理運営が行われていた。
Ｅ：管理運営の基準・事業計画書等に定める水準を満たしておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

（4）教育委員会指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
人的組織体制については、管理運営の基準に定められた人員を確実に確保すること	平成29年度	7月以降は56人以上の職員数を維持し、事業計画書にある職員数を達成した。月別平均職員数は55.9人（昨年52.8人）であった。
平日の利用者が少ないため、高齢者を対象としたプログラムを増やすなど一年を通して稼働率を上げられるような企画を検討すること	平成29年度	平日開催の講座として「大人の工作教室」を年数回開催している。29年度2回、30年度7回、令和元年度は4回実施（合計参加人数33人）した。高齢者向けのプログラムには、「シニア向けクラフト講座」を設定している。
メンバー会会員数が目標に対し半分にも満たない原因を分析し、会員の特典やメリットの周知を図ること。	平成30年度	メンバー会の認知度が低いことが原因ととらえ、館内告知の強化やメンバー会員限定イベントの開催増（13講座、延べ19日）を通して、新規入会と既存会員の更新率の向上を図った。 しかし、令和元年度末会員数は、新型コロナウイルス感染症による外出自粛や休館措置等の影響により、昨年度4,645人から3,889人（16.3%減）に減じることとなった。

6　利用者ニーズ・満足度等の把握

（1）指定管理者が行ったアンケート調査

実施内容	調査方法	館内にアンケート用紙と回収箱を2ヶ所に設置。アンケートは後日郵送できるようにハガキ大に設定。
	回答者数	565票
	質問項目	フェイスシート項目：年代・会員、非会員・住まい 質問項目：来館回数・同伴者・科学館全体印象・施設印象・再来館の意思・自由記述

結果

ア　回答者の属性

・年齢

1～12歳	13～19歳	20代	30代	40代	50代	60歳以上	無回答
31.1%	5.7%	9.7%	12.6%	19.2%	3.5%	2.8%	15.4%

・科学館会員比率

会員	非会員
12.8%	87.2%

イ　来館回数

はじめて	2～3回	4回以上
31.0%	23.6%	45.4%

ウ　科学館全体印象

とても良い	まあ良い	ふつう	あまり良くない	悪い
73.0%	22.3%	3.5%	0.2%	0.9%

エ　施設印象

とても良い	まあ良い	ふつう	あまり良くない	悪い
68.6%	25.6%	4.9%	0.2%	0.7%

オ　再来館の意思

ぜひ来てみたい	機会あれば来てみたい	どちらとも言えない	来たくない
76.1%	20.0%	2.4%	1.5%

（2）市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

主な意見・苦情	指定管理者の対応
停止中、調整中の展示物が多い。	展示物の不具合が発生した際には、専門のスタッフが迅速な修繕を行った。また、同年度内でサポート終了のPCを計画的に更新して、展示物が適切に稼動する環境整備を図った。
エレベータ内が暗く、階数表示が読みにくい。 コインロッカーが、コイン返却式だと知らなかった。	それぞれ、より視認性の高い表示を追加した。

7　総括

（1）指定管理者による自己評価

総括評価	B	所見	開館以来初めての館長交代を経た新たな体制で、事業計画書に沿って事業を推進した。 新しい事業展開では、文化庁助成事業「博物館を中核とした文化クラスター形成支援事業」等の外部資金を活用して多様な外部機関との連携による科学館活動の広がりを実現した。また、前年度に好評を得た学校向けのアウトリーチ活動「科学館おもしろ教室」の実施回数も大幅に増やし、地域に密着した支援事業となった。 また、1月には来館者500万人目のお客様を迎えて記念式典も実施した。 このように新たな可能性も追求しながら着実に事業を進めていたが、次年度に10周年を控えた「千葉市科学フェスタ2019」は台風19号により開催中止となり、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、年度の締めくくりの時期で長期の臨時休館を余儀なくされたたことで、科学館活動に大きな支障を来した。

（2）市による評価

総括評価	C	所見	前年度の評価において基準に満たなかったメンバー会員数については、諸般の事情により改善に至らなかったものの、そのほかについては市が指定管理者に求める水準等に沿って、良好な管理運営が行われていた。 （1）夏の企画展の集客が振るわなかったこと、1月から徐々にコロナウイルスに対する警戒自粛が見られたこと、3月はほぼ休館だったこと等の理由から、年間利用者数は394,974人（昨年484,671人、前年度比81.5%）となった。休館した3月の入館者数を例年通りと見込むならば42万8千人となり、市の基準40万人はクリアできていたと考えられる。 （2）11月の企画展「糸かけで見る数楽アートの世界」は入館目標6,000人のところ、17,087人と秋の企画展としては異例の来場者があった。図形と手芸アートの組み合わせという新しいジャンルを開拓した点で評価できる。 （3）土日講座、大人が楽しむ科学講座等の教育普及事業は提案通りに実施され、幅広い年齢層のリピーターづくりに寄与した。特に「大人が楽しむ科学講座」は提案回数40回に対し、51回の講座が計画された（中止6回）。 （4）「千葉市科学フェスタ2019」は、台風19号の接近、上陸のため中止となったが、早くから所管課との連絡を取りながら出展団体にも情報提供し、中止決定後は速やかな連絡を的確に行い、混乱なく対処することができた。 （5）令和元年度メンバー会員の数値目標11,000人に対し、年度末3,889人（前年度比83.7%）にとどまっている。

【評価の内容】
Ａ：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
Ｂ：市が指定管理者に求める水準等を上回る、優れた管理運営が行われていた。
Ｃ：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
Ｄ：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
Ｅ：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

（3）教育委員会指定管理者選定評価委員会の意見

市による評価は、おおむね妥当であると認める。
また、指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握する観点から、提出された財務諸表から判断した結果、財務に関する事項で特記するものはないと認める。
その他、次の事項を本委員会の意見とする。
ア　管理運営の履行状況において、指定管理者に対し、市がどのような観点で評価されているかを示し、施設管理に取り組む認識や姿勢に食い違いが生じないよう適切に指導されたい。
イ　メンバー会会員について、設定した目標1万人に対し半分も満たしていないことに危機感を感じ、目標設定など原因追及の上、メンバー会会員となることの特典やメリットの周知を図るなど、迅速な対応を図られたい。